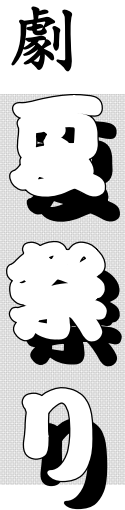


平成二十三年
大村町恵比須六月燈

大村町子ども会



《配 役》

お千花 (女五人衆)	千花	(祭り人)	朋甫
里紗	里紗	①	歩夢
円花	円花	②	空登
うらら	うらら	③	隆成
なつみ	なつみ	④	竜成
琴音	琴音	⑤	圭佑
家老	幸弘	⑥	春音
家来	颯太郎	⑦	生吹
黒駒の親分	琳太郎	⑧	知里
子分①	翔	⑨	
②	裕大		
③	匠平	ナレーション 特別出演	みのり
④	秀栄		幸雅
⑤	匠馬		

《あらすじ》

大村町の恵比須夏祭りを控えたある日、家老の娘「お千花」が、祭りの利権を楯に、黒駒一家にさらわれた。「お千花」を救うために、藩内の屈強な「女五人衆」が立ち上がり、「お千花」救出を図る。

《用意するもの》

祭りみこし、大うちわ、頭巾、はかま(6)、刀(2)、はつぴ(7)、白鉢巻き(5)、投げ文、ピストル、酒気セット、千両箱(石ころ入り)、つぶて、縄

《幕前》

みのり

(知里と三人の手を引いて、幕間から登場。「礼」)
これから、大村町子ども会の劇を始めます。その前に、今年から小学生になったお友達に、自己紹介してもらいます。

知里

わたしは、有川千代子のひ孫、有川成美の孫、有川奈美男の長女、有川知里と申します。今年から一年生になりました。どうぞよろしくお願

みのり

いはします。
次は、来年一年生になるお友達のあいさつです。

幸雅

ぼくは、小路博紀の次男、小路歩夢の弟、小路幸雅です。どうぞよろしくお願

みのり

いします。
今年の太村町子ども会の劇は「夏祭り」です。太村町の夏祭りを前に、ご家老の娘がならず者に誘拐されてしまいました。誘拐された娘を取り返すために、勇猛果敢な女五人衆が悪党に挑みます。果たして無事、娘を取り返すことができるでしょうか。(「礼」。幕間から引つ込む)

《第一幕》(バックは「シルバークーテン」)

朋甫

(祭り人、威勢良く「ワッショイ、ワッショイ」と、みこしを担いでせり出しから登場。舞台の上を一周する。大うちわを朋甫が持つ)
さあ、みんな。今年の夏祭りは本番まであと三日だ。元氣を出してがんばるぞ！

全員

(こぶしを上げて)おおー！

歩夢

ここで、みんなの、意思疎通を図るために自己紹介してもらおう。

空

ぼくは、大妻小学校二年、北原空です。好きな□□は○○です。将来は▽▽になりたいです。どうぞよろしくお願

隆登

いします。
ぼくは、大妻小学校二年、田原隆登です。好きな□□は○○です。将来は▽▽になりたいです。どうぞよろしくお願

竜成

いします。
ぼくは、大妻小学校二年、時吉竜成です。好きな□□は○○です。将来は▽▽になりたいです。どうぞよろしくお願

圭佑

いします。
ぼくは、大妻小学校二年、宮脇圭佑です。好きな□□は○○です。将来は▽▽になりたいです。どうぞよろしくお願

春音 わたしは、大妻小学校二年、若杉春音です。好きな□□は○○です。将来
は▽▽になりたいです。どうぞよろしくお願いします。

生吹 ぼくは、大妻小学校二年、寺園生吹です。好きな□□は○○です。将来
は、▽▽になりたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

朋甫 はい、よくできました。なにか質問はないか！

空 はい。この夏祭りは、なんのためにやるんですか。

朋甫 いい質問ですねー。この夏祭りは、商売繁盛を願って「恵比須様」
をお祭りするんだ。

歩夢 この祭りがうまくいけば、大村町の商売繁盛まちがいなしだ。

竜成 ぼくの家は、時吉ストアだ。商売繁盛だ！

春音 わたしの家もYショップよ。商売繁盛だ！

圭佑 商売やっていない人はどうなるの？

朋甫 家内安全、安産祈願、健康祈願だ！

隆登 何でもいいから「恵比須様」の夏祭りだ！

生吹 (お千花、上手から登場)
あ、ご家老の娘さんだ。

歩夢 お千花さん、ようこそ。みんな夏祭りに張り切っていますよ。

お千花 この夏祭りを盛り上げて、不景気風を吹き飛ばして頂戴。

朋甫 合点だ。おいみんな、もうひと稽古しようぜ。

祭り人 (全員で元気よく) おおーっ！！

(みこしを担いで「ワッシヨイ、ワッシヨイ」と舞台を二周して、せり出し
から下りていく)

《急いで幕》

《幕前》(この間にバックを「道場風景」に変える)

親分 (親分、翔、祐大、幕間から登場)
家老の奴、上納金廃止例を振りかざして、今年の夏祭りから所場代を
取ることはまかり成らん、と言いやがった。

翔 親分、夏祭りは年に一度のかき入れ時だつてのに、これじゃ、黒駒一家は干上がってしまう。

裕大 親分、我々若いもんは、首になつてしまふんですか。今不景気で、こんな年になると、おいそれと、いい職は見つかりませんよ。

親分 お前たち、腹をくくつて黒駒一家を守る覚悟はあるか？。

翔・裕大 (一緒に)あります、あります。黒駒一家を背負つて立ちます。

親分 ならば、手は打つてある。家老一家はおろか、大村藩ををぶつつぶす！。

お千花 (下手から、お千花を縛つて匠馬、秀栄、匠平が登場)
はなしなさい！はなしなさい！(と暴れる)

匠馬 親分、捕まえてきましたぜ。世話の焼ける女だ。

秀栄 とり巻きが多くて、難儀しましたぜ。

匠平 家老の娘をかどわかせば、厄介なことになりませんかね。

翔 厄介どころじゃない。家老一家はおろか、大村藩をぶつつぶすんだよ。

お千花 なんですか！。あなたたち一体何者ですか。

親分 これはこれは、ご家老様のお嬢様。(なめ回すようにじろじろ見て)おい、裏の木に縛り付けておけ。
(全員、幕間から消える)

家老 (家老、上手から威張つて登場)

颯太朗 (颯太朗、下手から慌てて登場)
ご家老様、ご家老様、一大事です。

家老 何をそんなに慌てておる。一体どうしたというのじゃ。

颯太朗 実はお千花様が黒駒一家にさらわれました。ここに投げ文が。

家老 何？黒駒一家じゃと。(投げ文を読み、颯太朗に渡す)かねてより、ワシの進める上納金廃止令に逆らっているとは聞いておったが・・・。

颯太朗 (投げ文を見て)お千花様の命と引き替えに、千両寄越せと言っていますね。

家老 何とか手を打たねばならぬ。そうじゃこれ颯太朗。(颯太朗に耳打ちをする)

颯太郎

わかりました。早速手を打ちます。
(幕間から消える)

《第二幕》(バックは「道場風景」)

(道場の中。女五人衆が剣術の稽古に励んでいる)

(頭巾をした家老と、颯太郎登場)

(家老に気づいて)ご家老様がお見えです！稽古止め！

(みんな正座して)

ご家老様に礼！

ご家老様。ここは男子禁制の場所。滅多なことでは、男衆は入れませぬ。

実は、その、滅多なことが起きたのじゃ。

その滅多なこととは一体なんですか。

ワシの娘、お千花が、黒駒一家にかどわかされたのじゃ。

エッ、お千花様が。一体どうして。

わしが上納金廃止令を出したのが、気に入らぬと見える。

それで我々に、お千花様を救い出せということですか。

そうじゃ。かくなる上はお主たちにすがるしかない。この際、黒駒一家を壊滅して欲しい。

聞くとところによれば、黒駒一家は飛び道具を持っているらしい。

我々としても、命がけで臨まねば、返り討ちに遭う恐れもある。

お千花様は、夏祭りをこよなく愛しておられる。

夏祭りの若い衆も、毎日稽古に励んでいますよ。

三日後の夏祭りまでに何とか救い出せればいいが。

ご家老様の命とあらば、我々一同命に代えても、お千花様をお救いいたします。今少し、心の準備をさせてください。

家老 頼んだぞ。

(五人、家老に礼)(家老、颯太郎は去る)

里紗

さあ、いよいよ我々の出番です。失敗は許されません。

四人

承知！

(五人おもむろに立ち上がって、稽古を始める)

《第三幕》(バックは「シルバーカーテン」。おなつを「縛る木」)

(黒駒一家の庭。酒盛りをしている。おなつは木に縛られている)

(見張りから駆けつけて) 親分、家老が千両箱抱えてやってきますぞ。

そうか。そうか。丁重におもてなしするんだぞ。

家老

頼もう！大村藩家老の宮脇幸之進じゃ。

匠馬

お待ち申しておりました。御家老様、どうぞこちらへ。

家老

(お千花を見遣って) お千花、大丈夫か。助けに来たぞ。

お千花

父上、悪人の言うことを聞いてはいけません。

親分

これはこれは、元気な娘ごじや。御家老様。一献いかがかな。

(家老、杯を受ける)

ところで、約束の千両、お持ちいただけただけようじゃな。改めさせてもらう。

家老

いや待て。その前に、お千花を頂きたい。

親分

何を言うか。金が先じゃ！(子分共、強引に颯太朗から千両箱を奪い、親分

へ渡す。翔、祐大が千両箱を改める。ゴロゴロと石ころが出てくる)

親分

(石ころを手にして) 何だこれは。黒駒一家をこけにするのか。おい、野郎

共、家老と言えども構わん。殺せ。

翔

(じりじりにじり寄る。)

颯太朗

ご家老様に何をする！(両手を広げて立ちはだかるが、簡単に蹴散される。

颯太朗は舞台から転げ落ち、客席を通り國生さんの後ろから上手に控える)

翔

(短筒で一発。家老腕を押さえて倒れる)

翔

今度は、心の臓を狙ってやる。

(まさに短筒の引き金を引こうとした、そのとき)

五人衆

待ちなさい！(と大きな声で、格好良く登場)

親分

何じやお前たちは。

里紗 大村藩、必殺女五人衆。悪事は許さん！

親分 何が必殺女五人衆じゃ。構わん、皆殺しだ。者ども、かかれ！

(短筒を突きつけられるが、里紗のつぶてで短筒をはたき落とす)
(チャンバラでドンドンやつつける。親分と、翔、祐大は、お千花を引っ張り出して)

親分 おい、この娘の命はないぞ。刀を捨てる！

(にじり寄ってくる。五人が刀を捨てる。その時、舞台上で様子をうかがっていた颯太郎が、飛び出し、お千花を横取りし、家老のところへ連れてくる)

家老 お千花、けがはなかったか。

お千花 父上こそ大丈夫ですか。

(それを見ていた五人衆、刀を拾うと、翔、祐大、そして親分をめった斬り) かたじけない。これで大村藩も安泰じゃ。

皆さん、ありがとうございます。これで、夏祭りも賑やかにできるわ。

祭り人 (全員で)お千花さくん!!!

(「ワッシヨイ、ワッシヨイ」とせり出しから登場。黒駒一家以外、みんなでみこしを担いで賑やかに盛り上がったところで)

わたしたちは、こんな風に夏祭りを楽しめるけど、東日本大震災で困っている人たちはかわいそうね。

家老 そうじゃな。では朋甫、歩夢。東北の皆さんが元気が出るように、氣勢を上げてくれ。

朋甫 はい分かりました。では、会場の皆さんも一緒に「ガンバロー三唱」を行います。

歩夢 東日本大震災で被害に遭われた皆さん、僕たちも応援します。

朋・歩夢 セーノ。ガンバロー、ガンバロー、ガンバロー！

(今度は全員でみこしを担いで、舞台を「ワッシヨイ、ワッシヨイ」と繰り返す)

《急いで幕》

全員
幸弘

《ファイナーレ》

(二列に整列)

礼！大村町子ども会の自己紹介をします。

(未就学児から順番に自己紹介)

これで大村町子ども会の劇を終わります。礼！

《終わり》

◎注意したいこと

- 1 みこしを担ぐときは、心を一つにして、落としてけがをしないようにすること。(場合によっては、大人の黒子を使う)
- 2 練習しながら、台詞は言いやすいように変えたりすること。その際、おじちゃんや他の人の了解を得ること。
- 3 女五人衆は、絵になるように、格好良くやること。恐らく、二度と刀を使うシーンに巡り合わないだろうから……。
- 4 台詞は早く覚えて、大きな声で、ゆっくりと話すこと。
- 5 当日は、一人でも欠けると芝居ができないので、健康に気をつけること。
- 6 最後の「ガンバロー・コール」は、被災地に届くように、これ以上ない大きな声で、ぶちかますこと。この際、親御さんも周りの人を扇動するかのようになり、力一杯叫ぶこと。
- 7 幸弘は今年で終わりなので、自分のことは勿論、外の子どもにも気を遣い、特に頑張ること。